

かつて高貴だった日本人の心

前にも例として挙げましたが、20世紀のフランス最大の詩人ポール・クローデルが、これまた詩人として一世を風靡したポール・ヴァレリーに向って語った言葉が、外科医学の泰斗で文学研究でも高名なアンリ・モンドール博士によって記録され、書物になっております。それに拠ると、時は1943年(昭和18年)第2次世界大戦最中の秋の一夜、クローデルはヴァレリーにかう語っております。「私が断じて滅びない事を願ふ一つの国民がある。それは日本人だ。あれ程興味ある太古からの文明は消滅させてはならない。日本は驚くべき発展をしたが、それは当然で、他のいかなる国民にもこれ程の資格は無い。彼らは貧乏だ。然し、高貴だ」(『言霊の幸ふ国』市原豊太著より)と。

クローデルは、大正時代に6年間、フランス駐日大使として当時の日本人に接すると同時に、日本及び日本人について深く観察研究し、日本及び日本人の良さを誰よりもよく熟知してゐたと思はれます。それにしても「彼らは貧乏だ。然し、高貴だ」とは何と嬉しい評価でせうか。私はこの言葉に接する時、いつも感激して涙ぐんでしまひます。クローデルに取っては敵国である日本を「世界で滅びない事を願ふ唯一の国」と讃へてくれたのです。感激して愈々それにふさはしい人にならな

ければと奮起せずにはゐられないではないでせうか。然し、今の日本はどうでせうか。彼がもし生きてみて今の日本人を觀たら「物は豊かだが心は卑しい」と評するに決つてゐます。

この半世紀の間に、日本はどうしてこんなにも精神的に墮落してしまつたのでせう。勿論、小学校で道德教育をしなくなった事にも原因があるでせう。然し、もっと突き詰めて言ふなら、千数百年もの長い間、日本精神を培つて来た儒教思想を、敗戦以後、^{へいり}敝履のやうに棄ててしまつた事に原因があるのです。

「儒教は古くさくて現代の用にならない」と言ふ人が多いやうです。儒教は、紀元前550年に生れた孔子の言行を本とした思想でありますから、古いと言へば確かに古いに違ひありません。然し、孔子は世界3大聖人として、釈迦、キリストと並び、世界中の人々から2千5百年に亘つて尊敬されて来てゐて、その思想は、韓国や台湾、シンガポールでは、民族精神の根幹として今もなほ尊重され、生き続けてゐるのです。「古くさくて現代の用にならない」と言ふ人は、儒教を真には理解してゐない所から言ふものでせう。